

虚空蔵の滝

虚空蔵の滝について
 虚空蔵の滝は、上下あわせて四
 十五メートルある滝。上の滝は樹
 木におおわれて全容を見ることが
 はできない。下の滝は、直下で約
 三十メートルあり、近づくことも
 迫力がある。滝壺は、きんではと
 こもつめたい水しぶきがミスト
 シャワーのようにすずしい。



虚空蔵の滝では、弘法大師
 が修行し、後に多くの僧が
 虚空蔵の滝や生石の岩山で
 修行したと思われる。
 また、「紀伊名所回会」や
 「紀伊統風土記」に虚空蔵の
 滝について記されている。



弘法大師が修行した滝。
 虚空蔵という名前からも、信仰
 の対象になっていたことが感じ取
 れる。
 みなさんも行ってみてはどうだろう。

虚空蔵の滝の 特徴

正面から見れば直瀑のよう
 に見えるが横
 から見れば水
 量が多く飛び
 出してくるよう
 に見える。
 「虚空蔵」が
 「黒蔵」と記さ
 れるようになり
 そこから「転じて
 クロウ」と呼
 ばれるようになったと考
 えられる。



浄土寺に
ついて

実は寺って奥が深い

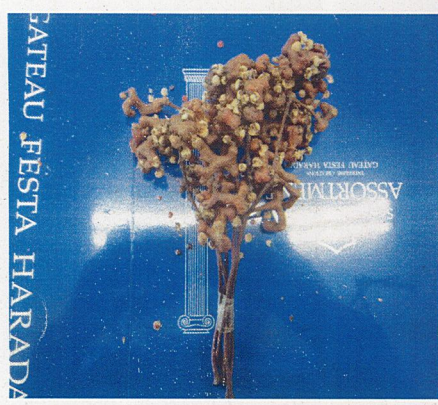
かんとおどろくことだ
ろう。浄土寺は二一八
二年から二一八三年
にできたのだ。浄土寺
にはクスノキがある。
そのクスノキはかんと
と六百才で幹周ハ
七六メートル樹高約
十七メートルもある。
このクスノキのウロに
ある石像。これはな
んと即王徳子の石像な
のだ。これだけすごい
クスノキは平成二四年
七月二日、和歌山県
指定天然記念物になっ
ている。この浄土寺にあ
るクスノキには、すご
い所がたぐよんあ
るのだ。

十
一夜
について



どういでもあるお寺。みんなは知
らずに生きているが、調べた
ら、びっくりするほど奥が深い。
みなさんも調べてみてはどうだ。

聞いた時はびっくりした。
なんと十夜は、二五九三
年から十夜をしい
たのだ。それも十夜
でなんだと思っ
た。十夜と云うの
は、十月十四日、いする祭
りだ。そこでは、上の写
真にあるかねをたた
いたり、おしょうせんが
ねん仏をとやえたり
する。これが十夜のの
だ。十月十四日、いするの
かすぶくなぞだ。た
えう、その理由は田い
水が必要で能感の池が
ら、田まで水路を作ら
うとした。しかし、中大
きな岩があった。人では
こおせなかつたのだ。そ
こであみだ様の岩をり
て、水路ができた。日か
十月十四日だからだ。
だから、この日、いする
の意味がないのだ。



山寄り京足



西ヶ山峯の秘密

蹴ありの阿弥陀様とは江戸時代
田を作るため池を作つて水路も
作つたが。大きな岩がじゃまをした。
どうにかして村人は、石をわらうとした
が、岩はぐくもしいない。毎日寺にい
つてある日、山の所へ行てみた。すると
なんと岩がわねていた。まわりに血が
たばたばとこぼれていた。まをたててみると小
さい岩にとりさりつておりました。こからた
どると手に入った。そして阿弥陀様
の足から血がでていた。村人たちは
感激して、とてもまりがたかつ
たという。

こしかけ岩



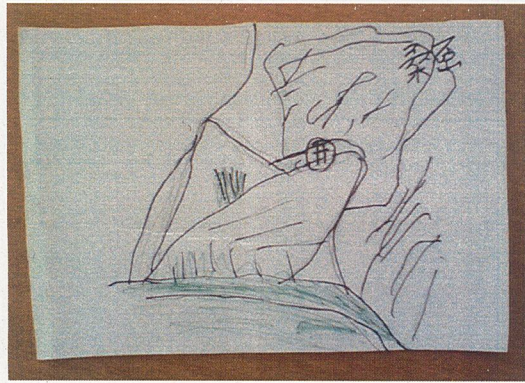
山のおく深く、みんなの知らないことがある。はい。みなさんも山へひか
けみては、どうだろうか。

阿弥陀様がこし
をかけて休けし
た所。足をわ
らでふいて手本
こをした。だが
ら、こしかけ岩
という。
小さいが少し有
名な岩だ。



能蔵の池

村人たちが、
水路を作つて
水を引くた
めに作った池
でも岩がじゃま
をした。
今も残っている。
コイなどの魚
がたぐさいる。



阿弥陀様と
は、関作ないか
山、大くに祭られ
た。はちまん
様などの神様
も所、祭られま
いた。今はもうま
とやら祭られ
ている。
大きな岩のふもとの
竹やぶには、ほころが
あり、まに祭られま

昇財天



次の滝は、和歌山県有田群有田川町延早月峽にある。滝型式は直瀑、急接近で、さまざまな角度から見られる。指定文化財に登録されている名勝だ。

次の滝について

次の滝



次の滝ルートマップの前に駐車場があり、そこには、車が二、三台おける。展望所からは、岩山の合間を一本の白糸が切りさくように流れ落ちる姿が望める。滝壺へ降りると、水しぶきを上げて一気に流れ落ちる大迫力の姿が楽しめる。

和歌山で一番高い滝は、那智の滝。では、和歌山で、二番目に高い滝はどこか知っているだろうか。

ウサギの伝説

江戸時代の地誌書、紀伊国名所図会に、此滝、那智の滝に次ぐを以て、次滝という。げに、この龍は那智につぐべく、此龍に次ぐ龍はあらざるべしとある。延坂の滝とも言う、滝の主はウサギだという。昔、村が干ばつになり、滝壺の脇にある祠に村人が集結した。祈禱師が祈りを捧げ、雨乞いをする。と、車轆音とともに真っ黒な大ウサギが滝を昇った。たちまち空に黒雲が広がり、雨が降り注いだ。ところが、翌年も雨乞いをすると、今度は白いウサギが昇り、雨が降らなかつたというウサギ伝説がある。